



2004年度防災教育チャレンジプラン

國 防 災 害

「災害に強いまちづくりプロジェクト2004」

防災教育チャレンジプラン資料

2004・2・27 (日)

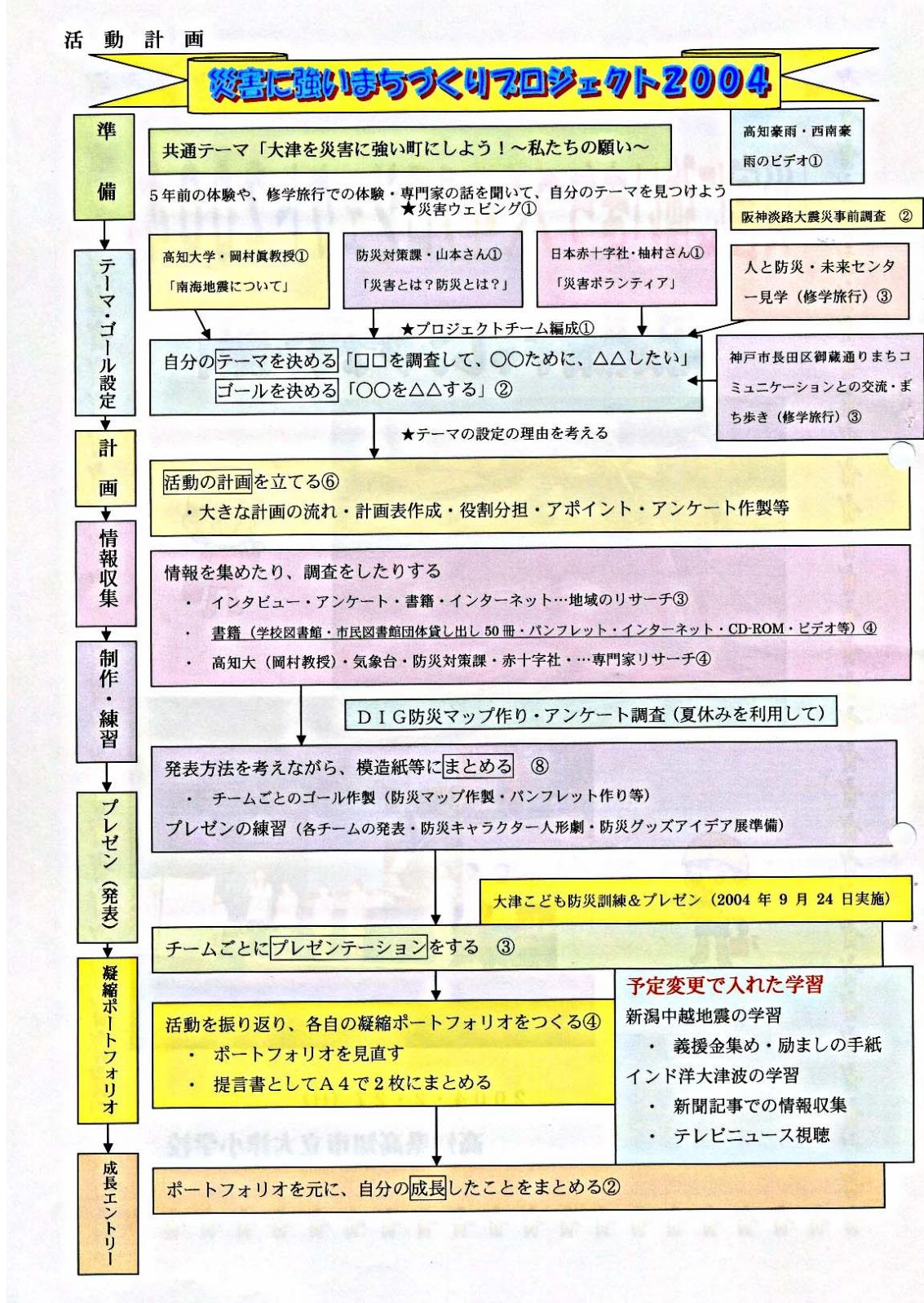
高知県高知市立大津小学校



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

「災害に強いまちづくりプロジェクト」&「危険予知トレーニング（KYT）」

高知市立大津小学校 岡 敦子

1. はじめに

高知市立大津小学校 6年生が4年前からスタートさせた「災害に強いまちづくりプロジェクト」は、30年以内に50%の確率で起こると予測されている南海地震（高知県が2004年7月に発表した被害想定結果によると最悪のケースで県内の死者は9600人・家屋の全壊は約81600棟）を恐れるだけではなく、地震に備えて、大学・行政・企業など防災の専門家の協力・地域の協力を得、子どもたちが「防災力」（自助・共助）を身に付けることをねらいとした4年間継続しているプロジェクト学習＆ポートフォリオ評価の実践である。

1998年9月24日から25日にかけて秋雨前線の影響で高知県は記録的な豪雨になり、大津地区に未曾有の被害をもたらした。水害から6年たち災害の記憶が薄れつつある今、大津の町をどんな町にしたいかの問いかけに、「災害に強い町」にしたいという思いが子ども達に強くあった。子どもたちが災害に対する恐怖心を乗り越えすべての子どもが将来必ず起こる南海地震に備えて「防災力」を身に付ける事をねらいとした「防災教育」である。

2. 研究の目的

「'98高知豪雨」時、大津小学校は1階部分がほとんど水没し復興までに長い苦労があった。もちろん大津小学校児童の家の多くは水没し、恐怖の体験・復興の苦労を経験している。災害への恐怖心は多くの子どもたちにまだ残っていた。そこで災害を恐れるだけではなく、災害に立ち向かっていける正しい知識・自助・共助の「防災力」を子ども達につけることをゴールとして、研究の目標を次の3点とした。

(1) 「防災力」を育てる

防災教育で最も大切な事は災害発生時、児童の一人ひとりがいかに適切な行動をとり自分の身の安全を守るか（自助）、共に助け合えるか（共助）の知恵・対応力を養うことである。

(2) 「'98年高知豪雨」の教訓を生かす

6年前の高知豪雨で学んだことは多い。その教訓を忘れず、将来必ず起こる「南海地震」に備えるための防災教育に生かす。



(3) 地域と共に「防災力」を高める

地域・専門機関・保護者・学校が協力して、防災に取り組んでいき、学校を防災コミュニティの拠点としていく「災害に強いまちづくり」を目指していく。

4年前から、「総合的な学習」の時間に、6年生が「災害に強いまちづくりプロジェクト」に取り組み始めた。以下3年間の子どもたちのプロジェクト学習と子ども達に危険予知力をつけることを目指し全校で取り組んでいる「危険予知トレーニング」の実践を報告する。





2004年度防災教育チャレンジプラン

3. 研究の方法

- (1) 本テーマはプロジェクト学習で進め、学習した履歴は元ポートフォリオに時系列でファイルしていく、凝縮ポートフォリオとして「提言書」を作成する。
- (2) 一人ひとりの学習前と学習後の成長をポートフォリオによって評価し、成長エントリー・通知表へつなげていく。

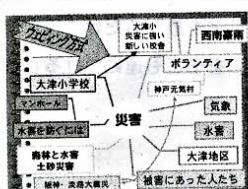
4. 研究の内容

〈ポイント① 意志ある学び「災害に強いまちづくりプロジェクト」実践記録〉

〈活動内容〉

① 準備

4月、6学年3クラス117名の子どもたちと、プロジェクトをスタートするにあたり、オリエンテーションを行った。「'98高知豪雨」のビデオや写真を見ることで、子どもたちに水害の記憶がよみがえった。その後、「大津をどんな町にしたいと思いますか?」という質問に多くの子どもたちが「災害にまけない町にしたい。」「災害に強いまちにしたい」と答えた。5月、「防災」をテーマに兵庫県へ修学旅行に行き、「人と防災・未来センター」での研修・神戸市長田区でのフィールドワーク・炊き出し体験を経験した。その後、日本赤十字社高知支部の方から「災害ボランティア」の話、高知市防災対策課の方から「防災」の話などを聞く体験を経て、子どもたちは「災害」を中心とした「ウェビング」を行った。



典の名前 ウェビング

長田区での炊き出し体験

災害ボランティアについての話

② テーマ・ゴール

ウェビングの中から、自分の取り組みたいキーワードを付箋に書き、「南海地震」「津波」「ボランティア」「防災」「火災」「土砂災害」「災害弱者」など自分の書いたキーワードに関するボードにその付箋を一斉に貼りにいき。21のプロジェクトチームができた。クラスは解体され同じ目的意識をもった者どうしが自分の意志で集まった。全チームが「大津を災害に強い町にしたい!」というビジョン(夢・願い)を持ってスタートしたプロジェクトである。次に、それぞれのチームでミッション(意志)をしっかり話し合って確認し、テーマの設定理由も考え、テーマが設定できれば、次にその願いを実現するためにはどうしたらいいか「ゴール」を具体的に決めていった。

③ 情報リサーチ

学習を始めるときに、「この活動は何のためにやっているの?」「あなたのグループのゴールは何?」と問い合わせながらやっていた。始めは答えられなかった子どもたちも、だんだん自



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

信を持ち自分の思いを言えだした。電話やファックスでリサーチのアポイントを子どもたち自身が取り、各チームはそれぞれ目的の場所へ情報リサーチに出かけた。

・高知大学・地震研究室・高知市防災対策課・日本赤十字社高知県支部等

④ 防災訓練&プレゼンテーション

子どもたちは集めた情報をまとめ、プレゼンテーションを行った。そして9月24日、6年生が企画・運営した「大津こども防災訓練」を実施した。大津小5,6年生が防災訓練に参加し、バケツリレーで火を消す練習・全員が水消火器を使って水をかける消火体験、スマート体験・被災後の部屋脱出体験・救急法体験などした。その後、体育館で子どもたちのプロジェクトの成果発表を、来年プロジェクトを引き継ぐ5年生・地域の方・高知市の防災対策課・高知市消防局の方々に行なった。

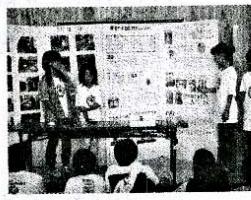
地域・行政・学校が連携して行った防災訓練は子どもたちが主体的に取り組んだ実践的な訓練であった。



消防訓練



バケツリレー



プレゼンテーション

⑤ 凝縮ポートフォリオ

初年度はプレゼンテーションを終え、各チームごとにA4・2枚に凝縮した提言書を作成した。しかし、チームごとのゴールが新聞やチラシやパンフレットが多く、それぞれが個別で出すより全グループの凝縮として「防災パンフレット」を作成するほうが、防災を呼びかけるには効果的という考え方で、新たなゴールを「防災パンフレット作成」に変更した。初年度の成果物は「防災パンフレット」、2年目は「防災テレビ番組制作」と「提言書」、3年目は「ウェブ上で防災博物館制作」・「デジタル防災マップ制作」、本年度は昨年取り組んだ「デジタル防災マップ」の更新、「改訂版防災パンフレット」等、毎年少しづつ形を変えながら取り組んでいる。



⑥ ポートフォリオ評価

このプロジェクトを通して子どもたちは様々な面で成長を遂げていた。子どもたちに「目に見える成長」と「目に見えない成長」を自分の元ポートフォリオに付箋を貼りながら、ポートフォリオ評価をさせた。この評価は3学期末に、教科の通知表と同じ大きさ・厚さの用紙に印刷して「総合的な学習」の通知表として配ることができた。

<ポイント②自助力をつける「危険予知トレーニング（KYT）」の取り組み>

<活動内容>

南海地震に備えて「防災学習」をスタートしたが、学習内容が知識中心になっていた。



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

そこで自分の身を自分で守ることのできる（自助）力を身につけるために、本校では全校児童で「危険予知トレーニング（KYT）」をスタートした。

毎月1枚のシート（登下校・給食・掃除・遊び・遠足・地震等の危険）を作成し、全学年でKYTを行っている。シートの中の危険に気づき、その危険を回避するための方法をチームで考え、最後にチームの行動目標を決め実践していくトレーニングである。KYTは企業・工事現場・病院等の労務災害をゼロにするために広く行われているトレーニングの手法である。

本校では3年前から、道徳の時間に全学年が危険を予測し、回避するにはどうすればよいのか自分で判断し行動できる（自助）力をつけるように取り組んでいる。



KYTの授業風景

今回のプロジェクトの成果を3つ上げたい。

（1）プロジェクトのテーマが地域・社会のニーズにあった課題だった。

（2）専門機関・専門家との連携により、防災のプロの協力を得た。

（3）ポートフォリオを凝縮して作成した成果物（パンフレット）の価値付け。

子どもたちは社会に役立つことをやり遂げたという自信をつけ、自尊感情を持つことができた。これからも継続して、「防災・安全」について自分で考え、自分で行動し、どんな困難も乗り越えることのできる子どもたちの成長を支援し、必ず起こる「南海地震」に対応できる人材を育成していきたい。

6. おわりに

本年度は、新潟県中越地震等、多くの災害が発生した年であったが、この「災害に強いまちづくりプロジェクト」は今年4年目のプロジェクトとして6年生が引き継いで取り組んでいる。

また全学年では、あらゆる危険を予測し自分の身は自分で守る（自助）力をつけるためにKYT（危険予知トレーニング）に取り組んでいる。また、安全に避難するための大津地区の「ハザードマップ作り」を専門機関・地域の方々と共に行った。（GPSを利用した安心安全マップ）

これからも「防災・安全」について自分で考え、自分で行動し、どんな困難も乗り越えることのできる子どもたちの成長を支援し、必ず起こる「南海地震」や、さまざまな危険・災害に対応できる人材を育成することを大きな課題とし、引き継ぎながら継続していくことが子ども達の力になるとを考えている。



防災テレビ番組制作



デジタル防災博物館制作



デジタル安心・安全マップ





2004年度防災教育チャレンジプラン

対応のポイント

- ① 本年度は新潟県中越地震をはじめ、多くの災害が起こり、「防災教育」の必要性を強く感じた。子どもたちはいつ・どこで災害に遭遇するかもしれない。正しい防災知識を継続して学習し、自分で考え、正しい判断・行動ができる「自助力」をつけることが大切である。
- ② 被災後、一番必要になってくることは地域のつながり、共に助け合って災害を乗り切っていく力、「共助」の心を育てる事が大切である。そのためには防災学習を保護者・地域・行政と共に取り組んでいく必要がある。
- ③ 防災学習はどうしても知識中心になりがちであるが、子どもたちの企画・運営で「防災訓練」をするなど、子どもたちにチャレンジさせることで、地域の「防災力」としての自覚ができる。
- ④ 危険予知トレーニング（KYT）や図上演習を定期的にトレーニングすることで、危険を予測し、回避するためにはどうすればよいか自分で考える力がつき、自分の身は自分で守る力が身に付く。



2005.1.16
高知市防災講演会でのプレゼンテーションの様子





2004年度防災教育チャレンジプラン

でじたるキッズミュージアムの紹介

感覚遊びから、おもちゃ遊びまで、様々な遊びを楽しむことができます。この遊び場は、6歳児が主に、JIS規格の「安全な遊び場」を目指して作成されました。



<http://www.d-km.jp/>

2003年度、鳴門教育大学
生のアドバイスを受けながら、
6年生児童が「災害に強いまち
づくりプロジェクト」の成果物
として制作した“でじたるキッ
ズミュージアム”



ボラン・ティアちゃん

〒781-5103
高知市大津乙972
高知市立大津小学校
TEL 088-866-2124
FAX 088-866-2165



2004年度防災教育チャレンジプラン